



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日
東

上場会社名 株式会社FRONTEO 上場取引所
コード番号 2158 URL <https://www.fronteo.com/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)守本 正宏
問合せ先責任者 (役職名)経理財務統括部長 (氏名)國枝 宏美 (TEL)03(5463)6344
四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	4,151	△29.9	△224	—	△128	—	△653	—
2022年3月期第2四半期	5,925	17.4	1,206	—	1,214	—	813	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 180百万円 (△79.2%) 2022年3月期第2四半期 866百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△16.63	—
2022年3月期第2四半期	20.75	20.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	11,001	6,367	56.5
2022年3月期	11,825	6,440	53.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 6,214百万円 2022年3月期 6,308百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	9,200	△15.8	200	△88.4	190	△88.7	△450	—
							△450	△11.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 - 社 (社名) 、除外 - 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期2Q	39,314,562株	2022年3月期	39,314,062株
2023年3月期2Q	696株	2022年3月期	696株
2023年3月期2Q	39,313,833株	2022年3月期2Q	39,212,100株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「Bright Valueの実現～記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、情報社会のフェアネスを実現する～」という企業理念のもと、独自開発の人工知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」、「Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)」及び「Looca Cross(ルーカクロス)」の3本を柱とする高度な情報解析技術を駆使し、祖業である国際訴訟支援、不正調査から製造、金融、小売、流通、そして医療分野といった様々なフィールドで、必要かつ適切な情報に出会えるフェアな世界の実現及び社会課題の解決に貢献しております。

ライフサイエンスAI分野につきましては、Medical Intelligence(メディカルインテリジェンス)領域において、論文探索を効率化する「Amanogawa(アマノガワ)」、分子や遺伝子の関連性を可視化する「Cascade Eye(カスケードアイ)」、そしてターゲット分子の科学性評価など複雑な評価指標をスコアリングする「liGALILEO(リガリレオ)」の3つのアプリケーションによるドラッグディスカバリー事業の拡大に向け取り組んで参りました。当第2四半期連結会計期間においても、大手製薬会社を中心としたターゲット顧客と協議を行っており、今年度中の収益化に向けて引き続き注力して参ります。また、創薬ターゲット探索の効率化・高速化に向け、東京工業大学との共同研究を2022年9月に開始いたしました。

Medical Device(メディカルデバイス)領域において、「会話型 認知症診断支援AIプログラム」に関して、従来は会話を書き起こしたテキストを入力データとするプログラムの開発を先行させ、その後に会話の音声を入力データとするプログラム(以下、自動音声認識機能付きプログラム)の開発を行う方針でしたが、自動音声認識機能付きプログラムの開発が順調であることなどから、今後の開発につきましては、自動音声認識機能付きプログラムに一本化することといたしました。また、開発プロセスで収集された質の高いデータセットや開発ノウハウを活用した民生品につきましても並行して開発を進めて参ります。

なお、「骨折スクリーニングAIプログラム」、「うつ病診断支援AIプログラム」及び「統合失調症診断支援AIプログラム」等その他の製品につきましても、順調に開発を進めております。

ビジネスインテリジェンス分野につきましては、企業のDX推進により市場の拡大が見込まれる中で、第1四半期連結会計期間に続き、当第2四半期連結会計期間におきましても、メール&チャット監査システム「KIBIT Communication Meter(キビット コミュニケーション メーター)」の受注が堅調でした。また、サービス向上を目的に「お客様の声」の分析を行う「WordSonar for VoiceView(ワードソナー フォー ボイスビュー)」に関しても複数の企業との間で導入に向けた協議を行っております。他社製品から当社製品に切り替える需要もあり、当社AI技術の優位性が評価された証左であると考えております。

営業体制の強化を目的とした人的投資につきましては、中長期の成長を視野に入れた体制としてはまだ途上ではあるものの、引き続き来期以降に向けて受注案件を増加させるために必要な営業体制を強化して参ります。

経済安全保障関連分野につきましては、2022年5月に経済安全保障推進法が成立し、官庁と民間企業双方での経済安全保障への関心が高くなっております。当第2四半期連結会計期間においては、「最先端技術・研究者ネットワーク解析ソリューション」に、新たに特許技術の国外漏洩リスクを検知する特許解析機能を搭載しました。引き続き、各所各社のニーズを把握し、的確なソリューションを提供することで事業の成長を図って参ります。

リーガルテックAI事業は大型案件の積上げが少なく、当第2四半期連結会計期間の当該事業における売上高は低調に推移しました。なお、米国子会社においては、AIビジネスへの転換を加速させること、非AIビジネスの戦略的削減による売上減少に伴うコスト構造の最適化を目的として、オフィスや組織の再編・統廃合などの構造改革を実行いたしました。

各事業の当第2四半期連結累計期間の概況は以下のとおりです。

(AIソリューション事業)

ライフサイエンスAI分野では、アクセリード株式会社との共同事業「Druggable Target 1000」のプロジェクトが完了し、収益を得ることができました。また、医療・医学専門情報の自動仕分けを行う「Mekiki (メキキ)」及び論文探索AIシステム「Amanogawa」に関しても製薬企業への導入は着実に進みましたが、大型案件の受注が低調に推移したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

ビジネスインテリジェンス分野では、企業のDX推進によるコンプライアンス対応のニーズにより、複数の企業で「KIBIT Communication Meter」が導入され、売上高は前年同期を上回りました。

その結果、AIソリューション事業全体の売上高は969,542千円（前年同期比1.0%減）となりました。営業損益につきましては、人的投資ならびに経済安全保障分野に関する投資を推進したこと等により、48,028千円の営業損失（前年同期は235,948千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)

サービスタイプ別		計
AIソリューション事業	ライフサイエンスAI	245,548 (415,609)
	ビジネスインテリジェンス	720,610 (542,276)
	海外AI	3,383 (21,366)
AIソリューション事業売上高 計		969,542 (979,252)

() は前第2四半期連結累計期間の実績

(リーガルテックAI事業)

リーガルテックAI事業は、eディスカバリサービスにおいて大型案件の受注が低調に推移したことに加えて、戦略的な非AIビジネスの削減により売上高が大幅に減少いたしました。

その結果、売上高は3,182,385千円（前年同期比35.7%減）、売上の低下に伴い176,798千円の営業損失（前年同期は970,130千円の営業利益）となりました。

サービスタイプ別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)

サービスタイプ別		計
eディスカバリサービス	Review	769,375 (1,845,342)
	Collection, Process	379,177 (478,522)
	Hosting	1,514,787 (1,927,818)
	計	2,663,341 (4,251,683)
フォレンジックサービス		519,043 (694,576)
リーガルテックAI事業売上高 計		3,182,385 (4,946,260)

() は前第2四半期連結累計期間の実績

顧客ホームカントリー別の売上高の概況は下表のとおりです。

(単位：千円)

顧客ホームカントリー別	計
日本・アジア	1,999,124 (2,506,899)
米国・欧州	1,183,261 (2,439,361)
リーガルテックAI事業売上高 計	3,182,385 (4,946,260)

() は前第2四半期連結累計期間の実績

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高4,151,927千円（前年同期比29.9%減）、営業損失224,827千円（前年同期は1,206,079千円の営業利益）、経常損失128,742千円（前年同期は1,214,814千円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失653,832千円（前年同期は813,467千円の親会社株主に帰属する四半期純利益）と前年同期を下回る結果となりました。なお、非AIビジネスの戦略的削減による売上減少に伴うコスト構造の最適化を目的とした構造改革費用として256,153千円、不正アクセス対応のための情報セキュリティ対策費として221,749千円を特別損失として計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は、前連結会計年度末と比べて824,064千円減少し、11,001,065千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べて890,339千円減少し、5,051,062千円となりました。これは主に、その他に含まれている前払費用等の増加と米国子会社の資産が為替の影響を受けたことにより増加した一方で、借入金の返済、開発投資、情報セキュリティ対策費及び配当金の支払い等により現金及び預金が1,533,825千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて66,275千円増加し、5,950,003千円となりました。これは主に、減価償却や米国子会社における構造改革に伴うオフィスやデータセンターの閉鎖により使用権資産が166,938千円減少した一方で、為替の影響によりのれんが156,626千円、顧客関連資産が138,582千円増加したことによるものであります。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べて750,956千円減少し、4,633,243千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べて255,854千円減少し、2,343,986千円となりました。これは主に、返済により1年内返済予定の長期借入金が96,666千円減少したことに加えて、法人税等の納付により未払法人税等が減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて495,101千円減少し、2,289,256千円となりました。これは主に、流動負債に振り替えたことにより長期借入金が363,295千円、リース債務が141,638千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて73,107千円減少し、6,367,822千円となりました。これは主に為替換算調整勘定が828,249千円増加したことに加えて、新株予約権が20,866千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失、配当による取崩により利益剰余金が929,026千円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、1,923,508千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、その主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は681,890千円(前年同期比1,993,141千円の収入の減少)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失を計上したことや、情報セキュリティ対策費の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は305,134千円(前年同期比49,855千円の支出の増加)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出281,907千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は741,541千円(前年同期比676,931千円の支出の減少)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出459,962千円、配当金の支払いによる支出275,193千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期連結業績予想につきましては、前回公表時(2022年8月15日)から変更はございません。

尚、新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響につきましては、軽微と想定しております。

(注) 業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。

実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性があることを予めご承知ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,461,309	1,927,484
売掛金及び契約資産	1,830,228	1,670,133
商品	86	86
仕掛品	24,443	11,811
貯蔵品	2,302	2,398
その他	700,473	1,474,257
貸倒引当金	△77,441	△35,108
流動資産合計	5,941,401	5,051,062
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	61,176	51,098
工具、器具及び備品(純額)	276,394	176,813
リース資産(純額)	13,212	12,569
使用権資産(純額)	353,450	186,511
その他(純額)	4,374	2,292
有形固定資産合計	708,608	429,285
無形固定資産		
ソフトウェア	1,016,614	918,563
のれん	1,403,025	1,559,651
顧客関連資産	1,278,802	1,417,385
その他	485,154	609,369
無形固定資産合計	4,183,597	4,504,968
投資その他の資産		
投資有価証券	853,414	862,414
差入保証金	120,932	119,559
繰延税金資産	5,269	5,264
その他	11,906	28,510
投資その他の資産合計	991,522	1,015,749
固定資産合計	5,883,728	5,950,003
資産合計	11,825,130	11,001,065

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,852	78,986
1年内返済予定の長期借入金	823,258	726,591
リース債務	367,550	384,581
未払金	193,530	195,508
未払法人税等	270,379	109,273
賞与引当金	125,538	118,234
訴訟損失引当金	84,990	73,047
その他	670,741	657,762
流動負債合計	2,599,841	2,343,986
固定負債		
長期借入金	2,374,792	2,011,496
リース債務	179,913	38,274
繰延税金負債	140,903	148,256
退職給付に係る負債	51,262	53,305
資産除去債務	35,233	35,422
その他	2,253	2,500
固定負債合計	2,784,358	2,289,256
負債合計	5,384,199	4,633,243
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,034,846	3,035,125
資本剰余金	2,771,993	2,772,272
利益剰余金	△140,203	△1,069,230
自己株式	△90	△90
株主資本合計	5,666,545	4,738,077
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	549,318	555,562
為替換算調整勘定	92,827	921,076
その他の包括利益累計額合計	642,145	1,476,639
新株予約権	132,239	153,105
純資産合計	6,440,930	6,367,822
負債純資産合計	11,825,130	11,001,065

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	5,925,513	4,151,927
売上原価	2,900,011	2,167,234
売上総利益	3,025,502	1,984,692
販売費及び一般管理費	1,819,422	2,209,519
営業利益又は営業損失(△)	1,206,079	△224,827
営業外収益		
受取利息	539	11,419
受取配当金	21,600	19,800
訴訟損失引当金戻入額	—	14,877
為替差益	—	62,690
その他	10,012	3,059
営業外収益合計	32,152	111,847
営業外費用		
支払利息	14,262	11,166
シンジケートローン手数料	2,687	2,166
為替差損	2,390	—
その他	4,076	2,428
営業外費用合計	23,416	15,762
経常利益又は経常損失(△)	1,214,814	△128,742
特別利益		
新株予約権戻入益	57,552	23,171
特別利益合計	57,552	23,171
特別損失		
固定資産除却損	3,043	956
情報セキュリティ対策費	—	221,749
事務所閉鎖損失	120,794	—
構造改革費用	—	256,153
特別損失合計	123,837	478,859
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,148,529	△584,430
法人税等	335,061	69,402
四半期純利益又は四半期純損失(△)	813,467	△653,832
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	813,467	△653,832

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	813,467	△653,832
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,234	6,244
為替換算調整勘定	36,927	828,249
その他の包括利益合計	53,162	834,493
四半期包括利益	866,630	180,660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	866,630	180,660

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,148,529	△584,430
減価償却費	415,502	406,541
のれん償却額	76,123	92,913
シンジケートローン手数料	2,687	2,166
固定資産除却損	3,043	956
構造改革費用	—	256,153
情報セキュリティ対策費	—	221,749
新株予約権戻入益	△57,552	△23,171
事務所閉鎖損失	120,794	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△2,432	2,042
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,489	10,932
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△89,718	△52,009
受取利息及び受取配当金	△22,139	△31,219
支払利息	14,262	11,166
為替差損益(△は益)	△5,367	△119,634
売上債権の増減額(△は増加)	221,654	285,526
棚卸資産の増減額(△は増加)	△13,027	14,645
仕入債務の増減額(△は減少)	△28,293	11,406
その他	△391,749	△1,058,821
小計	1,384,828	△553,084
利息及び配当金の受取額	22,139	31,219
利息の支払額	△15,159	△11,450
情報セキュリティ対策費の支払額	—	△221,749
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△80,556	73,173
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,311,250	△681,890
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△46,091	△18,693
無形固定資産の取得による支出	△227,188	△281,907
差入保証金の差入による支出	—	△4,534
差入保証金の回収による収入	25,544	—
資産除去債務の履行による支出	△7,543	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△255,278	△305,134
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△1,300,000	—
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△427,427	△459,962
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△9,452	△3,754
新株予約権の行使による株式の発行による収入	21,943	396
配当金の支払額	—	△275,193
シンジケートローン手数料の支払額	△2,951	—
その他	△583	△3,027
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,418,472	△741,541
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,591	193,769
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△354,909	△1,534,797
現金及び現金同等物の期首残高	3,001,761	3,458,306
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,646,851	1,923,508

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテック AI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	979,252	4,946,260	5,925,513	—	5,925,513
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	979,252	4,946,260	5,925,513	—	5,925,513
セグメント利益	235,948	970,130	1,206,079	—	1,206,079

(注) セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

II 当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	AIソリューション	リーガルテック AI	計		
売上高					
外部顧客への売上高	969,542	3,182,385	4,151,927	—	4,151,927
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	969,542	3,182,385	4,151,927	—	4,151,927
セグメント損失(△)	△48,028	△176,798	△224,827	—	△224,827

(注) セグメント損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間に、「リーガルテックAI」において80,595千円の減損損失を計上しております。なお、上記金額は、特別損失の構造改革費用に含まれております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。